

中央教育審議会高等学校教育部会
ルーブリックを活用したアセスメント

2012.11.19

関西国際大学

学長 濱名 篤

学習成果をどのように測定するのか

定量的尺度による測定

- 学業成績 (GPA)
- 資格・検定等の試験 (TOEFL, TOEIC等)
- 標準化 (外部) テスト結果 ex. AHELO
- 米国 NSSE のような学修行動調査 (間接評価)

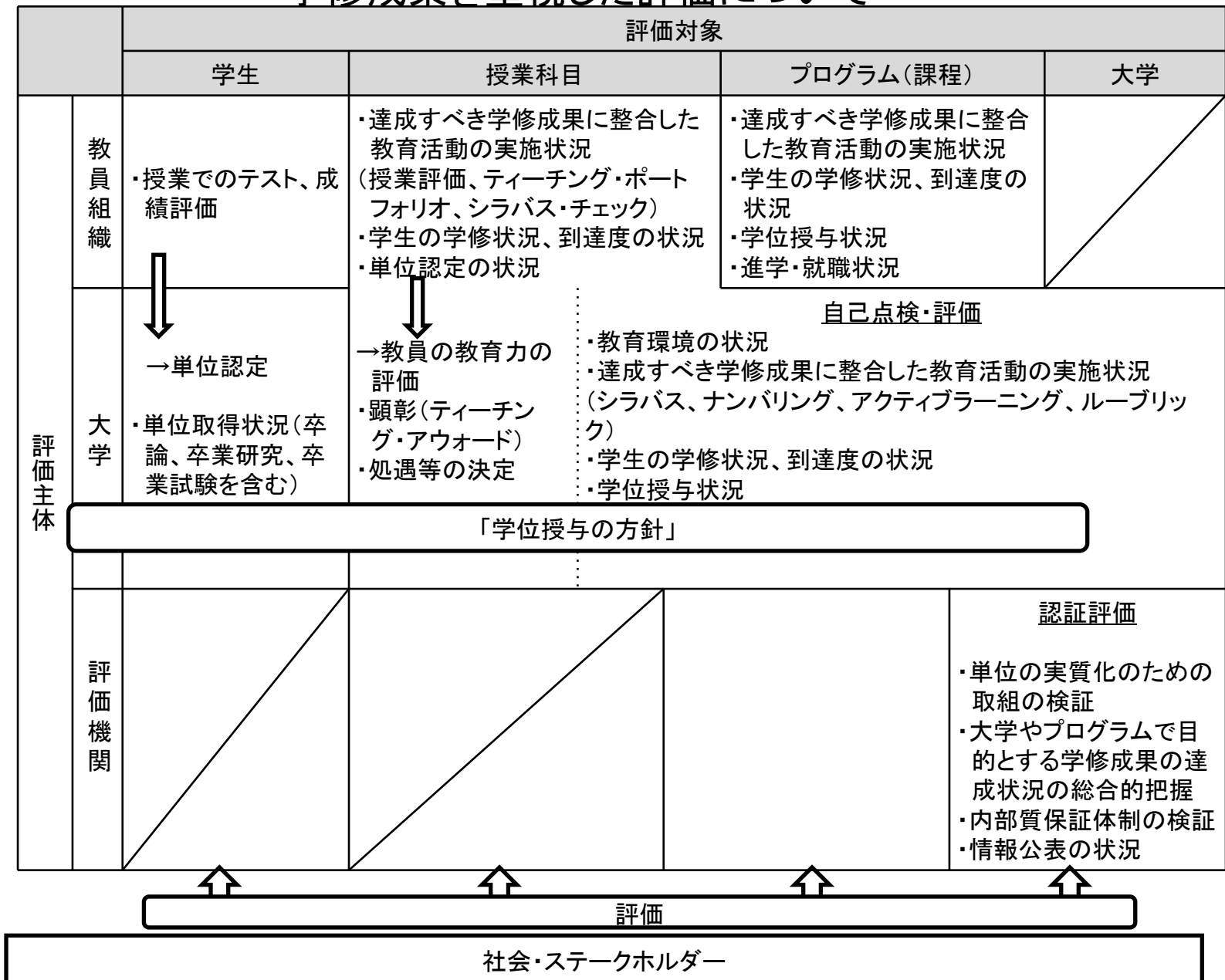
定性的評価による測定

- eポートフォリオ
- グループフォーカス・インタビュー
- 就職先・実習先からの評価
- **ルーブリックの活用** (評価の観点の可視化)
→ 定性的評価の可視化・尺度化

cf. AAC&U VALUE RUBRIC

学習成果をめぐる評価の位相(質的転換答申より)

学修成果を重視した評価について



評価の多元化・重層化の必要性

eポートフォリオは評価方法のひとつ

・現状は**優秀学生のショーケース**

・難点は

①学生の動機づけの仕方

②コメントやフィードバックの仕方

③評価の仕方

が未確立→ 要改善



評価方法の組み合わせの必要性

・定量・定性を組み合わせた多元的評価(含ルーブリック)

・何を目的にするのか？

→ **機関評価**、**プログラム評価**(学科、単位、科目単位) = マクロ

学生個人の成長 = ミクロ

→ルーブリックはどちらの用途にも活用可能 ！

ルーブリックとは

- 1) 「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、学生が何を学習するのかを示す**評価規準**と学生が学習到達しているレベルを示す**具体的な評価基準**を**マトリクス形式**で示す**評価指標**である
- 2) 学習者の「**パフォーマンスの成功の度合い**を示す**尺度**と、それぞれの尺度に見られる**パフォーマンスの特徴**を説明する**記述語**で構成される、**評価基準の記述形式**」として定義される**評価ツール**のこと。
アメリカにおいて先進的に開発され、数多くの高等教育機関が導入・活用している(**AAC&U**の**VALUE RUBRIC**が有名)。

AAC&UによるVALUE RUBRICとは

**VALUE: Valid Assessment of Learning in
Undergraduate Education**

VALUE Rubrics

Learning Outcomes for the development of * *

*** * は次ページの15項目が現在公表**

**注: Association of American Colleges and Universities
は主に教養教育、一般教育のアクレディテーション
機関(本部はワシントンD.C.)**

VALUE Rubric 15項目

Intellectual and Practical Skills

- 研究・分析 Inquiry and analysis
- 批判的思考 Critical thinking
- 創造的思考 Creative thinking
- 記述コミュニケーション Written communication
- 口頭コミュニケーション Oral communication
- 講読力 Reading
- 定量的リテラシー Quantitative literacy
- 情報リテラシー Information literacy
- チームワーク Teamwork
- 問題解決 Problem solving

Personal and Social Responsibility

- 市民としての知識と参加 Civic knowledge and engagement—local and global
- 認知的知識とコンピテンシー Intercultural knowledge and competence
- 道徳的考察 Ethical reasoning
- 生涯学習のための基礎とスキル Foundations and skills for lifelong learning

Integrative and Applied Learning

- 学修の統合と応用力 Integrative and applied learning

AAC&U(米国大学協会) VALUE RUBRIC「創造的思考法」

	秀 Capstone 4	優 Milestones 3	良 2	可 Benchmark 1
能力を身につけること Acquiring Competencies このステップは、ある特定の領域について、戦略や技能を修得することに言及する。	Reflect: 内省できる 該当領域を評価する上で適切な基準を用いることで、創造的なプロセスと成果物を評価することができる。	Create: 創造できる その領域にふさわしい全く新しいもの、解決策、考え方を創造することができる。	Adapt: 適応できる 適当な手本を自分の仕様にうまく適応させることができる。	Model: 倣う 適当な手本をうまく再現することができる。
危険負担 Taking Risks 課題をうまくなしとげようとする際に、個人的なリスクや失敗のリスクを含んでいること。	最終成果物を見ると、課題に取り組む際に、実証されていない、潜在的に危険な方向やアプローチを積極的に探し出し、努力してやりぬいている。	最終成果物の中に、課題を解決するための、新しい方向性や取り組みを組み入れている。	課題についての指針を越えることなしに、その範囲内で、新しい方向性や接近方法を考えている。	課題についての指針の範囲内に、完全にとどまっている。
問題解決 Solving Problems	問題を解決するための論理的で一貫した解決策を発展させるだけでなく、解決策の帰結を認識し、解決策を選択するに至った理由を、はっきり述べている。	複数の選択肢の中から解決策を選ぶことで、その問題を解決するための論理的で、一貫性のある解決策を展開している。	多角的によく考え、その問題を解決するにあたって受け入れることのできない方法を却下している。	たった一つの方法しか検討されおらず、その方法が問題解決のために使われている。
反論を包含していること Embracing Contradictions	別の見方や考え方、異なる見方や考え方、反対の見方や考え方を完全に一体化している。	調査方法の中に、別の見方や考え方、異なる見方や考え方、反対の見方や考え方を組み入れている。	別の見方や考え方、異なる見方や考え方、反対の見方や考え方を、わずかに含んでいる。また、別の見方や考え方の意義を、わずかに認識している。	別の見方や考え方、異なる見方や考え方、反対の見方や考え方を認めている。別の見方や考え方を、話の途中で、ついで程度に、言及しているにすぎない。

VALUE RUBRICの作成

- このルーブリックは、全米の大学を代表する大学教育の専門家によって、作成されたものである。
- その作成過程では、大学で活用されている既存のルーブリックを幅広く調査し、学習成果の記録を参照し、また教員からの意見を追加して反映させた。

VALUE RUBRICの利用上の注意(1)

- ルーブリックは、各々の**学習成果における基本的な評価基準をはっきりと明示する**ものである。
- ルーブリックでは、学生に求められるパフォーマンスのレベルを、下位の到達レベルから、より洗練された上位の到達レベルへと漸次的に明示することでパフォーマンスの描写を行い、評価基準を明瞭に示している。
- ここで提示されるルーブリックは、**大学機関レベルで、学生の学びを評価し議論することを目的としたものであり、学生の成績評価を目的としたものではない。**

VALUE RUBRICの利用上の注意(2)

- ルーブリックの有用性は、学士課程教育における学習を、基本的なフレームワークの中に位置づけることである。
- ルーブリックを使うことで学生の成功事例について**共通の枠組みの中で対話と理解**をはかり、**学習成果のエビデンス**を全国で**共有**することを目指している。

ルーブリック導入の背景(1)

AAC&U

- 質保証の一環
- 量的データ→アクレディテーション評価に使われるが多用しすぎ
- 標準化されたテストによる評価以外の“可視化”
- コカリキュラ、エキストラカリキュラの学習成果の評価方法に課題
- cf. AAC&Uの達成基準であるcivic engagement, diversity, open-mindedness等の評価
- 学習プロセス、リフレクションの重視

ルーブリック導入の背景(2)

ACPA (American Colleges Personnel Association)

学外活動の学生の成長の評価に必要

- ・カリキュラ、コカリキュラ、エキストラカリキュラ
- ・成績評価に直結しなくても学生は学外活動に自主的に取り組む→就職活動時に必要

アメリカの高等教育における ルーブリックの活用(小結)

- ルーブリック導入の背景
 - ・ 学習成果の証明というアクレディテーション機関(←連邦政府)からの学習成果証明への圧力への対応のひとつ
 - ・ 多様な経験の評価方法(パフォーマンス評価)開発の必要性
 - ・ 学生の自己評価と教員からのフィードバックを可能にする環境づくり
- 活用の現状
 - ・ 大学、学部(学科)、科目、個々の学生の達成の評価のために使うツールのひとつ
 - ・ ある程度の基準はあるものの、各大学に合った形にカスタマイズが可能 (例:知識とスキルの割合、達成度の分け方(3~5段階)、学習目標とルーブリックの数)

関西国際大学 コモンルーブリック(リサーチ) 全体

	5	4	3	2	1	0
テーマのたて方 (調査目的の設定)	独創的で、明確なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	明確で、実現可能なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、一般的な仮説や調査項目がたてられている。	テーマは設定されているが、仮説や調査項目が分かりにくい。	テーマがはっきりしない。調査項目、および仮説が示されていない。
これまでに明らかにされている知見の活用	信頼できる様々な情報源から、これまでに明らかにされた知見や課題を、自分が明らかにしようとしている内容に関連づけて活用している。	信頼できる複数の情報源から、これまでに明らかになった知見を、リサーチに関連づけて活用している。	複数の情報源からこれまでに明らかになった知見を示し、整理している。	複数の情報源から、これまでに明らかになった考え方や研究内容を、部分的であっても示している。	限られた情報源から、これまでに明らかになった考え方や研究内容を、何かしら紹介しているが、テーマとの関係が乏しい。	これまでの先行研究について示されていない。
研究方法と分析の視点	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしいいくつかの研究手法を用い、明確な分析の視点を示している。	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしい研究方法を用い、分析の視点を示している。	目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示している。	研究方法と分析の視点について、必要なポイントを捉えている。	研究方法と分析の視点について示されているが、必要なポイントが捉えられていない。	研究方法と分析の視点が示されていない。
分析	焦点に沿ってリサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・重要な型(パターン化)の発見など様々な観点から検討している。	リサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・パターン化など様々な観点から検討している。	リサーチで得られた情報をまとめ、類似点・相違点・パターンなど何らかの法則性を検討している。	リサーチで得られた情報をまとめることができている。	リサーチで得られた情報を列挙しているが、まとめることができていない。	リサーチした内容をまとめられていない。
結論	リサーチから明らかになったことについて整理し、専門基礎知識(自分の専門分野の概念や枠組み)を効果的に用いて、論理的に説明できている。	リサーチから明らかになったことについて整理し、専門基礎知識を用いて論理的に説明できている。	リサーチから明らかになったことについて記述し、専門基礎知識をある程度用いて説明できている。	リサーチから明らかになったことについて記述し、専門基礎知識を用いて説明しようとしている。	リサーチから得られた情報についての記述はできているが、専門基礎知識を用いての説明はできていない。	リサーチから得られた情報の記述もできず、専門基礎知識も用いられていない。

関西国際大学 コモンルーブリック(リサーチ) 1年生春学期～2年生春学期 (下位学年用)

	3	2	1	0
テーマのたて方 (調査目的の設定)	実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、一般的な仮説や調査項目がたてられている。	テーマは設定されているが、仮説や調査項目が分かりにくい。	テーマがはっきりしない。調査項目、および仮説が示されていない。
これまでに明らかにされている知見の活用	複数の情報源からこれまでに明らかになった考え方や研究内容を示し整理している。	複数の情報源から、これまでに明らかになった考え方や研究内容を、部分的であっても示している。	限られた情報源からであるが、これまでに明らかになった考え方や研究内容を、何かしら紹介しているが、テーマとの関係が乏しい。	これまでの先行研究について示されていない。
研究方法と分析の視点	目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示している。	研究方法と分析の視点について、必要なポイントを捉えている。	研究方法と分析の視点について示されているが、必要なポイントが捉えられていない。	研究方法と分析の視点が示されていない。
分析	リサーチで得られた情報をまとめ、類似点・相違点・パターンなど何らかの法則性を検討している。	リサーチで得られた情報をまとめることができている。	リサーチで得られた情報を列挙しているが、まとめることができていない。	リサーチした内容をまとめられていない。
結論	リサーチから明らかになったことについて記述し、これまでに学んだ考え方や研究内容とある程度関連付けて説明できている。	リサーチから明らかになったことについて記述し、これまでに学んだ考え方や研究内容を用いて説明しようとしている。	リサーチから得られた情報についての記述はできているが、これまでに学んだ考え方や研究内容を用いた説明はできていない。	リサーチから得られた情報の記述もできておらず、これまでに学んだ考え方や研究内容も用いられていない。

	3	2	1	0
テーマのたて方 (調査目的の設定)	独創的で、明確なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	明確で、実現可能なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されているが、一般的な仮説や調査項目しか示されていない。
これまでに明らかにされている知見の活用	信頼できる様々な情報源から、これまでに明らかにされた知見や課題を、自分が明らかにしようとしている内容に関連づけて活用している。	信頼できる複数の情報源から、これまでに明らかになった知見を、リサーチに関連づけて活用している。	複数の情報源からこれまでに明らかになった知見を示している。	複数の情報源から、これまでに明らかになった知見を、部分的にしか示せていない。
研究方法と分析の視点	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしいいくつかの研究方法を用い、明確な分析の視点を示している。	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしい研究方法を用い、分析の視点を示している。	目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示している。	研究方法と分析の視点について、必要なポイントしか捉えられていない。
分析	焦点に沿ってリサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・重要型(パターン化)の発見など様々な観点から検討している。	リサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・パターン化など様々な観点から検討している。	リサーチで得られた情報をまとめ、類似点・相違点・パターンなど何らかの法則性を検討している。	リサーチで得られた情報をまとめることに終始している。
結論	リサーチから明らかになったことについて整理し、専門基礎知識(自分の専門分野の概念や枠組み)を効果的に用いて、論理的に説明できている。	リサーチから明らかになったことについて整理し、専門基礎知識を用いて論理的に説明できている。	リサーチから明らかになったことについて記述し、専門基礎知識をある程度用いて説明できている。	リサーチから明らかになったことについての記述しかできていない。

実質的な教員間連携を構築する コモン・ルーブリック評価

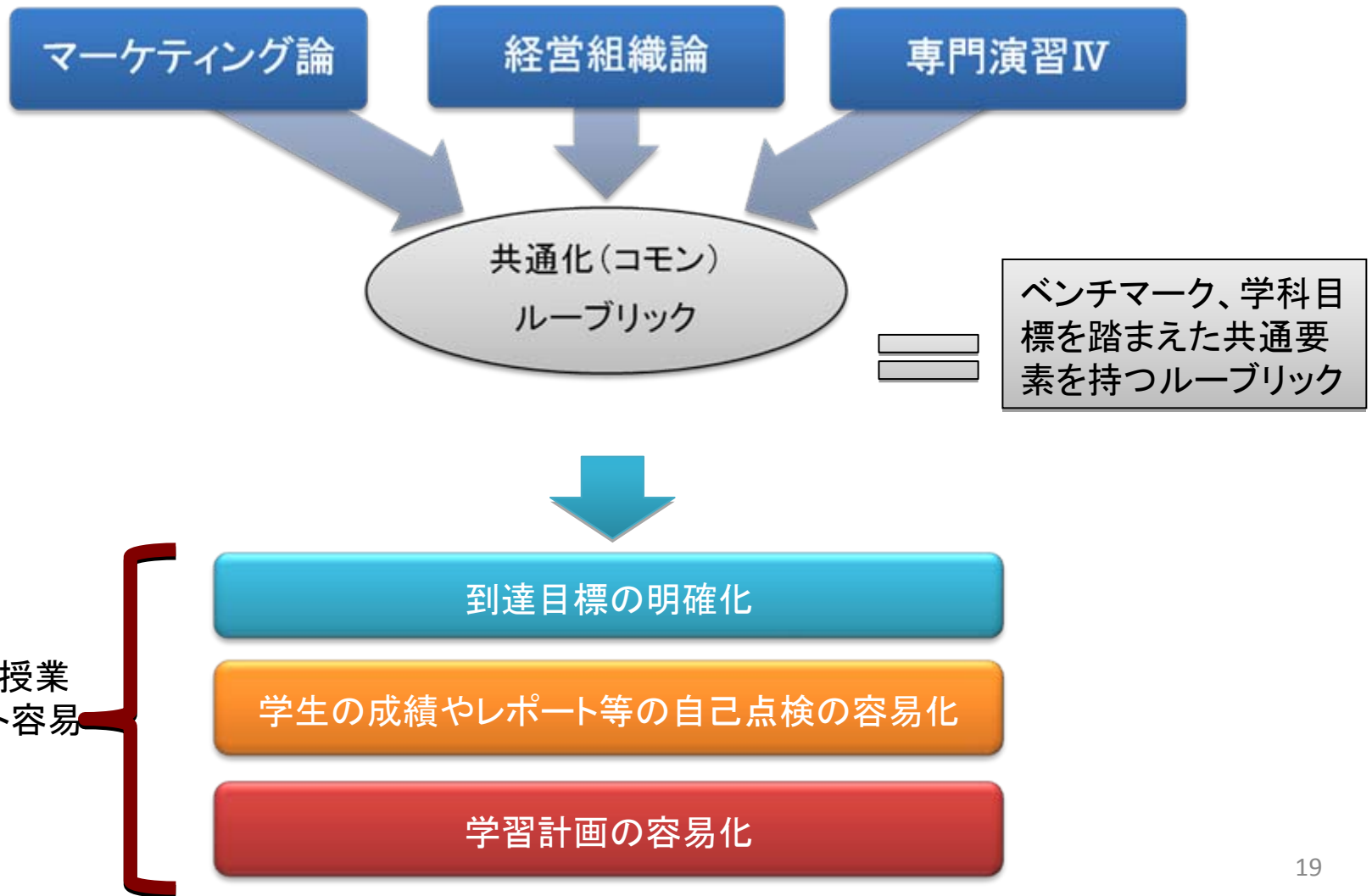
関連する事項として、教材やテキストや学生の学習スキルの伸長状況を
教員間で共有できる

ex.複数科目でコモン・ルーブリック用いる場合、

- ①評価の観点・基準を共有する
- ②期間を調整してレポートを課す
- ③タイミングを調整しフィードバックする(レポートとフィードバックのタイミングは調整の上、毎週何かの科目のレポートがあり、かつフィードバックがあることが望ましい)
- ④学習スキルの伸長状況を教員間で共有する(課題レポートの回覧が効果的)

以上の方式で活用すると効果的である

ルーブリックの共通化



まとめ

1. ルーブリック評価の利点

- 1) 到達目標と評価の観点・基準を可視化することにより、評価者の主観的ばらつきを縮小し、評価の標準化ができる
- 2) 学習者があらかじめ到達目標や評価の観点・基準を意識して学修に取り組むことができる
- 3) 形成的評価と総括的評価に一貫して利用可能であり、学習者へのフィードバックが定性的なコメントのみに比べ容易である(テスト等の定量的評価よりは手間はかかるが)
- 4) 単独科目の評価にとどまらず、構造的・体系的な評価に活用していくことができる
- 5) プログラム評価と学生の達成度評価の両方の用途で利用可能である

2. ルーブリック評価の課題

- 1) テスト等の通常の定量的評価に比べると手間がかかる
- 2) ルーブリックを作成するだけでは評価者間の誤差が完全には無くならず、継続的にワークショップなどで評価者間の誤差を調整し続けることが必要
- 3) 共通ルーブリックの作成は基準間のレベル設定などが難しく、誰もが作成できる訳ではない（PDCAサイクルによる精選化も必要）
- 4) アセスメントプランの中で、多元的なアセスメントの1方法として組み込んでいく

KUIS学習ベンチマーク項目

《KUIS学習ベンチマーク（大項目・中項目）》

*自律できる人間になる

自分の目標を持ち、その実現のために、自ら考え、意欲的に行動するとともに、自らを律しつつ、自分の発言や行動に責任のあることを自覚できる

*社会に貢献できる人間になる

社会の決まりごとを大切に考え、自分の責任を誠実に果たすために、勇気をもって行動し、社会に貢献することができる

*心豊かな世界的市民になる

多様な世界の人々や自分たちの社会について理解を深め、社会的に弱い立場の人たちに対する共感的な感覚や態度を身につけ、世界市民として行動できる

*問題解決能力を身につける

状況に応じて、情報ツール※を活用し、情報収集や情報分析ができ、問題解決視点から、解決のアイデアを構想したり、企画したりする思考力や判断力を身につけることができる

※図書館利用、ITツールによるWeb検索、『知へのステップ』の活用など

*コミュニケーション能力を身につける

社会生活を営む上で、他人の考えを受け止め、理解し、自分の考えを的確に表現するプレゼンテーション※ができ、意見交換ができる

※レポート、口頭発表、身体表現などを含む

- ◆**知的好奇心**：新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲をもつことができる
- ◆**自己責任感**：自分の行動や発言、役割や立場に、責任があることを自覚し、ものごとを最後まで遂行できる
- ◆**自律性**：自分で考えた目標をもち、自分らしさを見失うことなく、自らを律しつつ目標の実現に向けて自主的、主体的に行動できる

- ◆**誠実性**：社会の中の個人として権利と義務を理解し、一人の人間として嘘のない誠実な行動や人間関係を大切にすることができる
- ◆**順法性/協調性**：複数の人々と暮らす社会や学校での規則、決まりごとを尊重し、自分を見失うことなく、協調性を発揮して、規則などを順守し、社会的な目的を果たすことができる
- ◆**社会的行動力**：社会や組織、集団の中の一員として、自分の役割や責任を果たすこと、自ら進んで社会や他人のために行動することができる

- ◆**共感的態度**：困ってる人がいることを認識し、相手の立場に立って感じる、想像する、考えるなどして（困ったときはお互い様という気持ちをもって）行動することができる。
- ◆**柔軟性**：すでに身に付けた知識や技能を、その時、その場の状況に応じて、生かし、様々な価値観や文化を尊重する態度で行動することができる。
- ◆**多様性理解**：異なる文化や言語、自分と異なった考え方や行動する人たちがいる多様な社会を理解し大切に考え、国際的な視点や環境保護の視点から世界市民として行動することができる。

- ◆**思考/判断力**：よりよい問題解決のために、偏った判断をしない公正さを保ち、その時・その場の状況（TPO）に応じて、判断したり、アプローチの仕方を変えたりしながら、道筋を立てて論理的に考えることができる。
- ◆**企画力**：問題や課題を分析し、解決のために情報を整理し、計画を立てて、必要な情報や資料を検討し、実行可能にすることができる。
- ◆**情報収集/整理力**：必要な情報や信頼できる情報をさまざまな方法を使って集め、解決の視点から必要な情報を取捨選択し、使いやすく整理・保存して、問題を発見することができる。

- ◆**プレゼンテーション/表現力**：レポートや口頭発表、調査結果の報告会などの場で、自分の考えをわかりやすく説明するために、資料をつくったり、説明の仕方を考えたり、声の大きさや間の取り方、文章や映像など表現を工夫したりできる。※“資料をつくる”“説明の仕方を考える”“表現を工夫する”のいずれかができていること
- ◆**リーダーシップ/メンバーシップ**：小集団やグループの目的実現のために、自分の役割や責任を理解し、他者との協働や交流を通して、リーダーシップやメンバーシップを発揮しながら行動することができる。
- ◆**話す・聴く力/意見交換力**：他者の発表や文章を傾聴し、読解して、その内容の要点をとらえ、自分の疑問や意見をまとめ、建設的な意見交換をすることができる。
※いわゆる「読み・書き・計算」と言った基礎的な知識・理解を含む

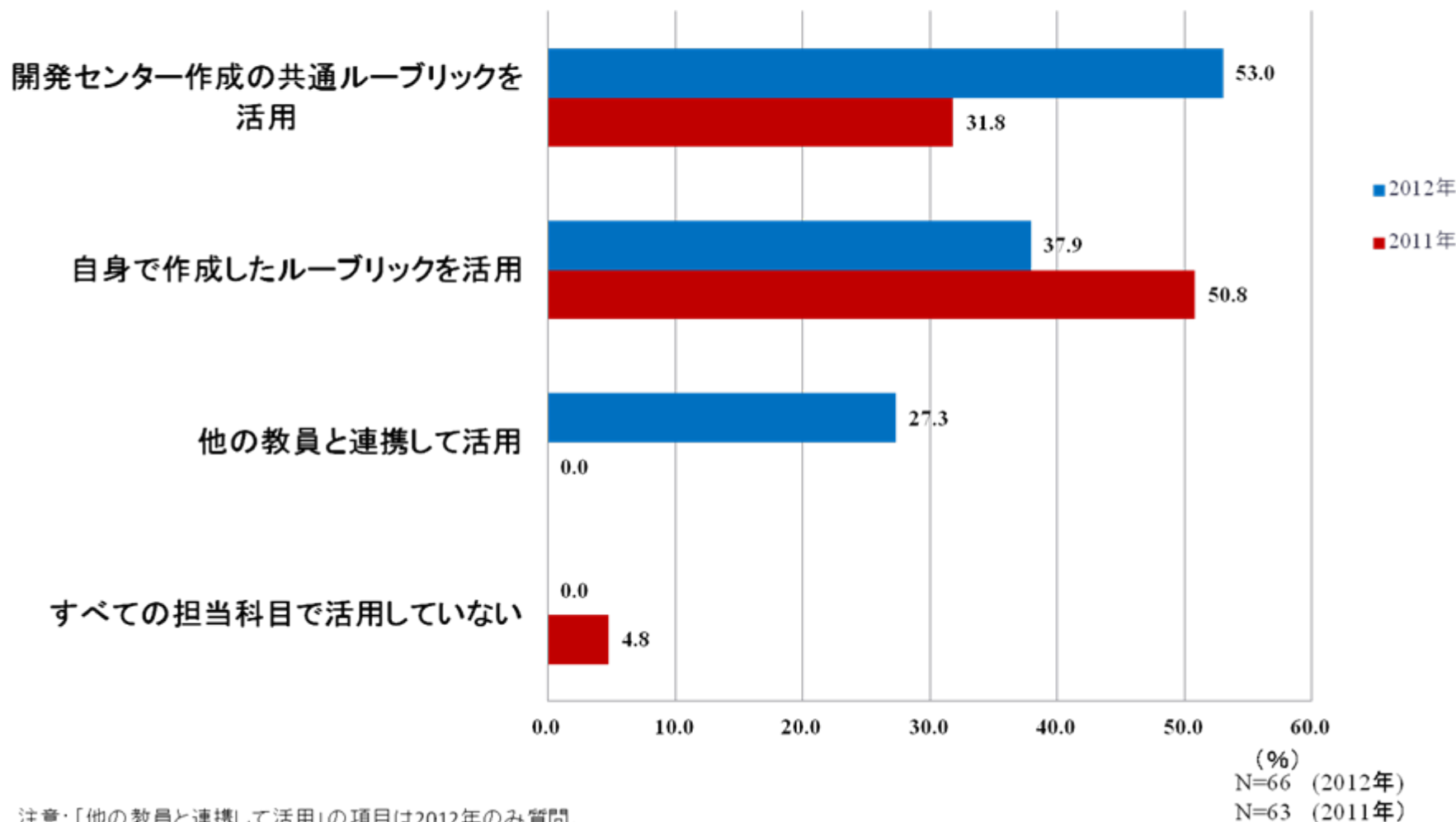
学習ベンチマーク達成のためのルーブリック

- 2006年度に制定されたベンチマーク(到達基準)にルーブリックを組み合わせる。
- 2010年度に制定。
- 2011年度より本格的に活用

大項目		中項目		3	2	1
1	自律できる人間になる	自分の目標をもち、その実現のため、自ら考え、意欲的に行動すること、自らを律し、自分の発言や行動に責任のあることを自覚できる	知的好奇心 新しい知識や技能を学ぶことに興味や意欲をもつことができる	知りえた内容に刺激を受けて、新たな問題関心が生まれ、自ら学習を進めることができる	授業の内容で、「なるほど!」本当にそれの「面白い!」と心を動かされること	授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる
2			自己責任感 自分の行動や発言、役割や立場に、責任があることを自覚し、ものごとを最後まで実行できる	協力的な活動などで、自分の役割を理解し、最後までやり遂げたことについて改善点を整理することができる	グループ学習や協働的な活動などで、自分の役割を理解し、最後までやり遂げることができる	自分より優れた学習経験や仕事を最後までやり遂げたことのできる
3			目標性 自分で考えた目標をもち、自分らしさを見失うことなく、自らを律し、目標の実現に向けて自主的、主体的に行動することができる	具体的な生活目標やそれを達成するための計画を立て、計画通り実行し、振り返ることができる	具体的な学習目標や生活目標にそれを実現するための計画を立て、実行することができる	具体的な学習目標や生活目標とそれを実現するための計画を立てることが
思い浮かべる場面				キャンパスライフ全般(授業や課外活動、クラブ活動など)や社会活動への参加をとおして	1. 当該学期に受講している科目全般をふりかえて 2. キャリアアプランニング、基礎演習、専門演習、卒業研究などを思い浮かべて	
4	社会に貢献できる人間になる	社会の決まりごとを大切に考え、自分の責任を誠実に果たすために、勇気をもって行動し、社会に貢献することができる	屈従性/協働性 授業の人々と暮らす社会や学校でのルールや規範(約束)を、自分自身も守ることなく、協働性を発揮して、規則などを固守し、社会的な目的を果たすことができる	社会の一員として、自ら積極的に、他の人の協力を得ようとする行動をとることができる	社会の一員として、守らなければならないことを守らなければならない、他の人の協力がないと行動できない	大学内でのルールや社会のマナーをきちんと守ることができる
5			誠実性 社会の中の個人として権利と義務を理解し、一人の人間として健やかな行動や人間関係を大切にすることができる	社会や友人とのあいだで、不正や偏見、無理な強要に対して批判的に立ち、それに屈することなく、いかに行動することができる	きまりを重視した約束を破ることに抵抗感を示し、不正のない行動を心がけることができる	自分がかんたんに失敗に気づくこと
6			社会的能動性 社会や組織、集団の中の一員として、自ら進んで社会や他人のために行動することができる	社会的な奉仕活動に自ら進んで積極的に参加することができる	社会の一員として、自分が正しいと信じていることを行動に移すことができる	ゼミなどの活動において決められた役割を果たすことができる
思い浮かべる場面				キャンパスライフ全般(授業や課外活動、クラブ活動など)や社会活動への参加をとおして	4. 5. 授業やクラブ活動などのキャンパスライフを中心にふりかえて 6. セミやサービ斯拉ーニング、あじあ祭などの活動を中心にふりかえて	
7	心豊かな世界市民になる	多様な世界の人々や自分たちの社会について理解を深め、社会的に弱い立場の人たちに対する共感的な感受や態度を身につけ、世界市民として行動できる	多様性理解 異なる文化や言語、自分と異なる考えや行動をする人々や自分と異なる社会を大切に考え、世界市民として行動することができる	自国の文化や社会現象に関心をもつとともに、他国の文化や価値観、多様な価値観を理解することができる	他国の文化や考え方を受け入れることができる	自分の持つ特徴と異なる価値観を持つことがいるという価値観
8			共感的態度 社会的に弱い立場にいる人、困っている人たちがいることに関心をもち、感受性や感情を働かせ、相手の立場に立つて感じる、考える、想像するなどの共感的な態度や理解ができる	社会的に弱い立場の人やつらい思いをしている人たちの関わりを通して、いろいろなこと気づき、見方や考え方が広がる	社会的に弱い立場の人やつらい思いをしている人たちのことと理解することができる	相手の立場に立つてものごとを考えることができる
9			柔軟性 自分の見方・考え、行動の仕方を変えたりし、状況に応じて、その行動を調整し、既習の知識や技能を柔軟に働かせることができる	自分の知識や技能を活用し、状況に応じたもの見方や行動をとることができる	自分の考え方や行動の仕方について振り返り、実行計画を踏まえながらやり方を変えることができる	自分の考え方や行動の仕方について振り返ることができる
思い浮かべる場面				キャンパスライフ全般(授業や課外活動、クラブ活動など)や社会活動への参加をとおして	7. 8. キャンパスライフ全般(授業や課外活動、クラブ活動など)をふりかえて 9. 留学生との交流や海外研修/海外サービ斯拉ーニング(グローバルスタディ)での活動等をふりかえて	
10	問題解決能力を身に付ける	状況に応じて、情報ツールを活用し、情報収集や情報分析ができ、問題解決の視点から、解決のアイデアを構想した企画案(たりする思考力や判断力)を身に付けることができる	情報収集/発見力 必要な情報や信頼できる情報を探し、必要な情報や資料を整理し、使いやすく整理・保存して、問題を発見することができる	自分の知識や技能を活用し、状況に応じて、その行動を調整し、既習の知識や技能を柔軟に働かせることができる	チームに合った資料やデータを収集し、整理・保存することができる	チームに合った資料やデータの収集方法を知らず
11			企画力 問題や課題を分析し、解決のために情報を整理し、計画を立てて、必要な情報や資料を確保し、実行可能にするることができる	問題や課題を解決するための具体的な作業項目やそれを解決するための方法をほとんど計画し、綿密な計画を立てることができる	問題や課題を解決するための具体的な作業項目やそれを解決するための方法を検討し、大まかな計画を立てることができる	問題や課題を解決するための具体的な作業項目やそれを解決するための方法を考えることができる
12			思考/判断力 よりよい問題解決のために、偏った判断をしない公正さを保ち、その時々の場の状況(TPO)に応じて、判断したり、アプローチの仕方を変えたりしながら、道筋を立てて論理的に考えることができる	学問的な理論を使って、現象を不足なく説明することができる	直面している問題や課題を解決するために、その原因や結果の手続きを道筋を立てて説明することができる	決められたルールや手順を守り、周囲の状況や判断しながら自分の言動を考慮することができる
思い浮かべる場面				キャンパスライフ全般(授業や課外活動、クラブ活動など)や社会活動への参加をとおして	10. 11. 12. 当該学期に受講している科目のレポート作成やグループ活動、サービ斯拉ーニングやあじあ祭での活動をふりかえて	
13	コミュニケーション能力を身に付ける	社会生活を営む上で、他人の考えを受け止め、理解し、自分の考えを的確に表現するプレゼンテーションができ、意見交換ができる	プレゼンテーション/表現力 レポートや口頭発表、調査結果の報告などの場で、自分の考えをわかりやすく説明するために、資料をつくらせ、説明の仕方を考えたり、声の大きさや間の取り方、文章や映像など表現を工夫した上で、必要資料をつくる”説明の仕方を考える”表現を工夫する”のいずれかができること	プレゼンテーションが巧みに構成され、その主張に正確に、ほつりや歪みなく行われていて、聞き手を引くような内容で発表することができる	レポートやプレゼンテーションの構成が形式に沿って組み立てられていて、自分の主張を相手に正確に伝えることができる	レポートやプレゼンテーションの構成が形式に沿って組み立てられていて、相手に思いたいことを伝えることができる
14			リーダーシップ/メンバーシップ 小集団やグループの目的実現のために、自分の役割や責任を理解し、他者との協働や交流を通して、リーダーシップやメンバーシップを発揮しながら行動することができる	グループ活動の中で、グループの方針に影響を与えるほどの貢献を行うことができる	グループ活動の中で、グループの方針に沿った活動の提案を行うことができる	グループ活動の中で、グループで決めた方針に沿って活動することができる
15			話す/聴く力/意見交換力 他者の発表や文章を正確に聴解し、自分の意見や疑問点を伝えたり、文章を交換してその内容を、建設的な意見交換をすることができる。多い場合は「聴く・書く・計算」と言った基礎的な知識・理解を言	他者の発表を正確に聴解し、その内容に関連した質問や意見をしたり、文章を交換してその内容に関連した疑問や意見をクラスの人に伝えることができる	ゼミなどにおいて、他者の発表を正確に聴解し、その内容に関連した疑問や意見をしたり、文章を交換してその内容に関連した疑問や意見をクラスの人に伝えることができる	ゼミなどにおいて、他者の発表を正確に聴解し、その内容に関連した疑問や意見をしたり、文章を交換してその内容に関連した疑問や意見をクラスの人に伝えることができる
思い浮かべる場面				キャンパスライフ全般(授業や課外活動、クラブ活動など)や社会活動への参加をとおして	13. 当該学期に受講している科目のレポート作成やプレゼンテーション、クラブ活動など)全般をふりかえて 15. キャリアアプランニング、基礎演習、専門演習、卒業研究などの活動をふりかえて	

関西国際大学における専任教員の ルーブリックの活用状況

(複数回答)



注意:「他の教員と連携して活用」の項目は2012年のみ質問。

参考：**東京学芸大学** 文科省専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム
(平成20年度)

課題：「実践的指導力育成を保証する評価指標開発」
で下記の研究を実施した

- 教職大学院のカリキュラムの中核をなす、学校現場および教師自身の課題解決をねらいとする「課題研究」を取り上げ、1年履修プログラムを中心に、ルーブリック等の評価指標の開発と具体的にその質を保証する仕組みを構築することを通して、課題研究指導プログラムの開発
- 当初は「課題研究のテーマ」「教育実習」「課題研究の追求過程」と時間軸に沿って、3つのルーブリックを開発(6月15日版)。その後、テーマ設定をするためのルーブリック(課題研究Ⅰ・Ⅱ段階)と研究をまとめるための自己評価シート(課題研究Ⅲ段階)というタイプ(1月8日版)をへて、最終的にテーマ設定をするためのルーブリック(課題研究Ⅰ・Ⅱ段階)と研究をまとめるためのリフレクションシート(課題研究Ⅲ段階)

参考資料

- AAC&U VALUE RUBRIC
<http://www.aacu.org/value/rubrics/>
- Terrel L Rhodes “Authentic Assessment and the VALUE of Learning”, General Education and University Curriculum Reform: An International Conference in Hong Kong
- 中央教育審議会答申「新たな未来を築くための学士課程教育の質的転換に向けて」2012年8月28日、12－14, 2012
- 笠原千絵「ラーニングアウトカムの評価とルーブリックの活用」関西国際大学FD資料 2010.9.9
- 吉田武大「アメリカにおけるバリュールーブリックの動向」関西国際大学教育総合研究所研究叢書4号、2011年3月



ご静聴ありがとうございました。